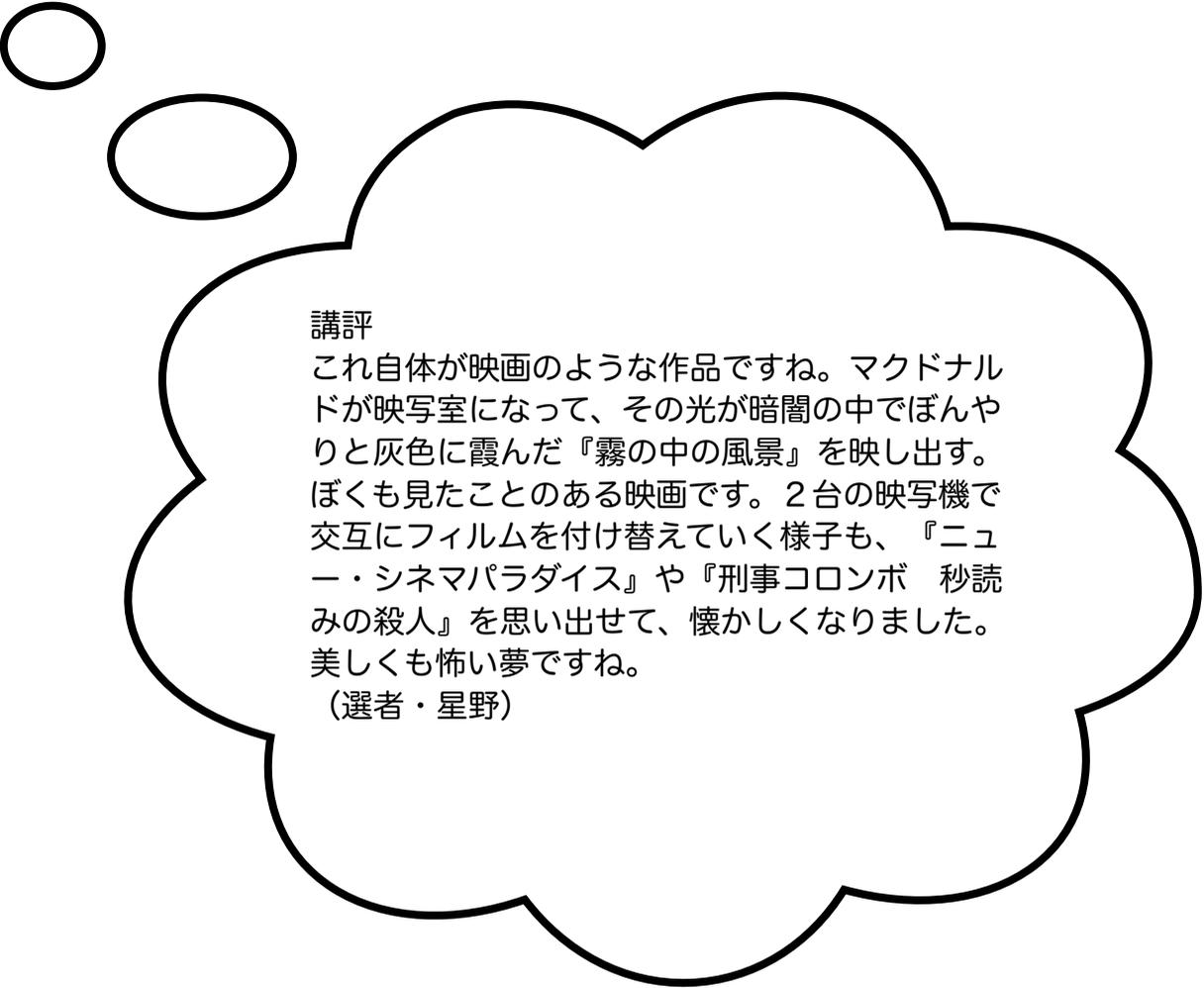


僕のひとり言 夢

僕はよく夢を見る、映画館に夢かめていたページの
そしてその夢は映写機がトラブルをおこす、
つい先日もマックで考えことをしていたらついついウトウト、
そのまま夢の中へ——気がつくとも僕は一人
映写室で映画を映つしている、映つしていた映画は
みおぼえのあるようなないような、あっそうす”と前に
〇巾着の〇X△座にいた時に映つしたことのある
「霧の中の風景」？ ぬかい文市弟が父親さがしの旅の
物語(ロードムービー) 淋しげな少女の顔と悲しい
メロディーが心に残る映画だ、又その文市弟に僕と姉を
かさねて観ていたのをおぼえている、映写機は
古い機械だ、今のシネコソの機械とはちがう、
僕が映写技師をしていた頃の機械だ、2台の
映写機にフィルムを分けて映つす機械だ、
“ガチャン”と言う音と共に映写機は停まった、僕は
映写機を動かそうとするが、停まったはずの機械の
モーターが回っている、フィルムを掛けなおし映つすことが
できないう、汗が容顔から流れる時間だけが過ぎてゆく
——トコトコとテーブルをたたく店員のつめたい音で
目が醒める、僕のひとり言。



講評

これ自体が映画のような作品ですね。マクドナルドが映写室になって、その光が暗闇の中でぼんやりと灰色に霞んだ『霧の中の風景』を映し出す。ぼくも見たことのある映画です。2台の映写機で交互にフィルムを付け替えていく様子も、『ニュー・シネマパラダイス』や『刑事コロンボ 秒読みの殺人』を思い出せて、懐かしくなりました。美しくも怖い夢ですね。

(選者・星野)